

第4回日本精神科医学会学術大会 2015.10.8-9 (沖縄県)

脳 SPECT にてアルツハイマー病が否定され、ドネペジル中止後認知リハビリテーションによって認知機能が著明に改善した MCI の一例

医療法人 聖志会 渡辺病院 作業療法課
松本祥平、門岡奈月、下村瑠衣
菊池多恵、林田綾、高井静香

【はじめに】今回我々は、アルツハイマー病と診断され、長期間薬物療法を行なっているものの、脳血流シンチにてアルツハイマー病が否定され薬物療法を中止した後、認知リハビリテーションを続けた結果、認知機能が著明に改善した一例を経験したので若干の考察を加え報告する。

【症例】70歳後半、女性、軽度認知機能障害 (F06.7)

【家族歴】なし

【既往歴】50歳頃、子宮筋腫、C型肝炎、X-8年、高血圧

【生活歴】中学卒業後、工場に勤務。結婚し2児を出産。仕事は2年前に引退。

【現病歴】X-2年物忘れが出現し、買い物の道を間違えたり、同じ物品も何回も購入するようになった。X-0.5年、近医でアルツハイマー病と診断され、ドネペジル処方されその後10mgに増量された。しかし改善することなくX年当院物忘れ外来受診。

【初診時所見】HDS-R 23点、立体模写：正解、SDS：30、Barthel Index：100、言語表出：57語(8分野)、頭部MRI：左内頸動脈に小動脈瘤、VSRAD 1.38、脳SPECT：後部帯状回、楔前部に血流低下を認めない。

【初診時内服薬】ドネペジル10mgのほか、抗血小板剤、降圧剤、PPI、抗アレルギー剤

【治療経過】脳SPECT結果を長女に説明後、ドネペジル10mgの中止希望があり、一方、認知リハビリテーションは継続した。ドネペジル中止3ヵ月後、再受診。HDS-R 23点→29点と、言語表出(8分野)57語→76語と改善していた。X+0.5年、HDS-Rは、27点である。

【考察】現在ドネペジルは、アルツハイマー型認知症、レビー小体病以外には効果が明らかにされていない。また、ドネペジルの副作用に認知機能の低下は報告されていない。今回、A氏は、アルツハイマー病が否定されたため薬物療法を中止し、認知リハビリテーションのみ継続したところ、認知機能の著明な改善がみられた。これらから今回認知機能が回復した背景に、認知リハビリテーションの効果が示唆された。